

第4号様式（第8条関係）

議 事 録

会議名	令和元年度 第2回寒川町生活支援・介護予防サービス基盤整備推進会議		
開催日時	令和元年10月30日（水曜日） 10：00～12：00		
開催場所	寒川町健康管理センター 1階 多目的ホール		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	出席委員：三澤委員（委員長）、中間委員（副委員長） 小西委員、小黒委員、森委員、佐藤（敬）委員、 中澤委員（7名） 欠席：鎌田委員、彦根委員 事務局：鈴木福祉部参事兼高齢介護課長 仲手川副主幹 後藤主任主事、柏木主任主事 社会福祉協議会：浅野生活支援コーディネーター 傍聴者数：なし		
議 題	1. 生活支援コーディネーター活動報告 2. 岡田県営住宅地域における生活支援サービスの調査方法について 3. 介護予防・日常生活支援総合事業の再編について		
決定事項	岡田県営住宅地域における、生活支援サービスのニーズ調査の手法について、アンケート調査で実施するのではなく、住民の方に参加していただくブレインストーミング（討議形式）での実施に変更した。ブレインストーミングは12月4日（水）に実施を予定しているが、その際には、三澤委員長と中間副委員長が参加することとなった。		
公開又は非公開の別	公開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<議事前段の進行> ○委員長挨拶 三澤委員長 ○議事録署名委員確認 森委員、佐藤委員 <ここから議事> 議題1 生活支援コーディネーター活動報告 浅野Co：【資料1を用いて、令和元年7月から10月までの活		

【動内容について報告】

中間副委員長：中高年の引きこもりが社会問題となっていると思う。実際に寒川町でもそのような例があるので、そのような問題を役場に相談するとすれば、担当はどの部署になるのだろうか。

事務局：引きこもりをしている要因にも抛ると考える。例えば、引きこもったことによって、職を失ったということであれば、就労の支援が必要であろうし、健康面に課題があるようであれば、健康の部局というようになるので、そのケースの内容によって、どこの部署にご相談を、ということになる。

三澤委員長：年齢などは関係してくるのか。高齢者であれば、こちらへ、というような。

事務局：高齢者に関する課題ということであれば、まずは高齢介護課であろうとも思うが、ご存知のとおり高齢化率は27%になっている。つまり、単純な計算で、相談があれば4つに1つは高齢者からの相談となるわけで、高齢者だからと一括りに出来ないのが現状である。8050問題ということで、議会でも取り上げられたが、現在、専門の担当というものはない。あえて挙げるとすれば、町民相談担当であると思うが、やはり課題によっては各部署に振り分けられるようになる。

中間副委員長：実際に、今後どのようにしたらよいのか、とお悩みの方の声を聞いているので、確認をさせていただいた。

三澤委員長：生活支援コーディネーターの報告として、非常に多岐にわたったご報告をいただいた。だが、生活保護世帯や外国籍労働者への日本語学習支援等については、本会議の扱う範囲ではないという認識でよろしいか。

事務局：委員長の言われたとおりである。本会議は、高齢者に対する生活支援と介護予防のための基盤を整備することが目的であり、そのような状況があるという程度の情報提供であれ

	ばよろしいかと思うが、それについてはまた別の部署が行うこととなる。 三澤委員長：申し訳ない。出席している委員の共通認識とするために、確認をさせていただいた。 議題2 岡田県営住宅地域における生活支援サービスの調査方法について 浅野Co：【資料2及び参考資料1から、岡田県営住宅地域における生活支援サービスの調査方法について、前回の会議では、調査票を用いた調査を行うとしていたが、県の生活支援コーディネーター向け研修を受講したことにより、実際の住民の方とブレインストーミングによる討議形式で行うようにしたい。また、開催は12月4日を予定しており、本会議の委員にも1-2名ご参加いただきたいという旨を提案。 また、参考資料2は、県の事業において団地を対象とした取り組み事例があったので、参考として紹介した。】 三澤委員長：調査方法を変更したいとの提案であったが、各委員了承いただけるか。 一同了承 森委員：今回、対象となるのは県営住宅地域のみということで良いか。周辺地域については対象外となるのか。 浅野Co：そのように考えている。 三澤委員：団地を対象としての調査ということであろう。 森委員：町内の他の団地については、行わないのか。 中澤委員：今回は、初めての取り組みということで、まずは小規模に開催する方が良いと思う。そして、成功するようであれば広げていくという考えが適當ではないだろうか。
--	---

小西委員：元々の話が、高齢化率が高い岡田県営住宅の高齢者に対する生活支援であるので、まずはそこでのモニタリングを実施し、この手法で問題なく進めていけるかも確認したい。そして、上手くいくのであれば、モデルケースとして他の地域にも応用出来るかを検討するべきだと思う。

浅野Co:今回、まずはやってみて、この手法が有効な様であれば、町内の他の団地で実施するような展開も考えたい。

中間副委員長：今回は、自治会長さんが協力的であるということだが、やはりこのような問題は自治会についても知っていたいて一緒になって進めていければと思う。

三澤委員長：では、12月4日の当日に参加を希望する委員はいないか。もしよろしければ、私は参加させていただきたいと考えている。

中間副委員長：時間はどのくらいで考えているのか。

浅野Co:14時半から16時半までの2時間程度を予定している。

中間副委員長：シニア連としても、興味関心が高いので、私も参加させていただきたいと思う。

三澤委員長：では、私と中間副委員長が参加させていただくということでよろしいか。

一同了承

議題3 介護予防・日常生活支援総合事業の再編について

事務局：【資料3及び参考資料3、4を用いて、寒川町における総合事業が、本年度以降、補助金が交付可能な上限額を越える見込みとなったことを説明。寒川町の総合事業を持続可能なものとしていく為に、今後は、介護予防通所型サービスの代替となるような「通いの場」の創出についても、今後、この会議

で扱っていく旨を伝えた。また、一般介護予防事業についても、本年度以降、より事業内容を精査し、より、厳しい視点で実施の是非を判断していくことになること、また、参加料の徴収についての再検討の必要性を伝え、今回の会議で、一般介護予防事業について、ご意見を伺いたい旨を説明した】

三澤委員長：では、一般介護予防事業の見直しについて、ご意見を願います。

小西委員：今回、アンケートで、1回あたり300円という値段設定で問いかけたということだが、この考え方について異議がある。要支援者のデイサービスを参考にしてということであつたが、デイサービスは一般介護予防事業とは異なり、家族のレスパイトや食事等についても提供されるものである。その為、それだけの金額を支払っても、利用者や家族はデイサービスに参加したいと考えるのだが、一般介護予防事業で、この参加料300円を年金生活から捻出して参加するののかという点に疑問がある。

また、アンケートでは、88人中37の方が、この値段設定で有料化した場合には参加しないと回答しているが、これはやはり大きな数字として捉えるべきだと考える。この37の方が、通う場所がなくなるということである。それは、これだけの数字の方が、ご自身で取り組まれている介護予防の機会を喪失するということであるので、将来的な介護給付費の抑制という考え方からしても、やはり、大きなマイナスとなるのではないだろうか。

また、今行っている一般介護予防事業の中で、評価したいのはシニアげんきポイント事業だ。例としてだが、他市町村で山間部の紅葉の葉を集めている高齢者の話があるかと思うが、あれは、自身の活動に対する対価をもらえることがその方の生きがいとなっている例だと思うが、この事業は、同様にご自身が行った活動に対価が出せる制度ということであり、同じような活動も予防事業と出来ないかとも思う。

事務局：高齢者が対価を得て作業を行うということであれば、シルバー人材センターに対して、お願いして実施している部分

	もある。山北町などでは、お茶の作業などについても行っている事例があり、寒川町でも介護予防とは別の面で、そのような特産物などに高齢者の活動の場を見出すことも検討していきたい。 小西委員：健康寿命を延ばすことが重要だとよく聞くが、寒川町は農業を営まれている方が多く、ご年齢が上がっても稼業として営まれている方はご健康なイメージがある。課題は、そうでない方、会社で仕事をしていてリタイアされた方々を、どれだけ魅力的なもので引き出していくか、ということだと考えている。 森委員：健康を中心として考えれば、そういった制度を実施している市町村もある。例えば、一日に一万歩以上歩くとポイントが付くというようなものだ。介護予防ではなく、健康を担当する部局と、上手くリンクさせるような取り組みを実施して、予防事業以外として行う事で調整していけないだろうか。 中間委員：介護予防事業は、その時点の高齢者のみが、介護予防に取り組むということではなく、継続して実施することに意味があると思う。予算がないから事業を終了するということでは、先ほどもお話にあったように、将来的により費用がかさむことになる。まずは、事業継続を前提として、受益者負担などの制度を検討していくことが重要だと思う。 シニアクラブ連合会としても、健康体操を行っているが、これは有料化している。1年間で1,000円という値段設定でなんとかやっている。やはり、これも継続することが大事だと思っている。 中澤委員：やはり、一般介護予防事業を無くすということは考えられない。これだけ盛況で、高齢者の方が自身の健康について、気を使って参加したいという状況であれば、いきなり、有料化ということで提案するよりも、総合事業の上限額の現状について、きちんと参加者に説明し、その上で、ご理解をいただいて、有料化を検討してはどうか。交通手段を見てみれば、4割くらいの方が徒歩で来ている。それだけ意識の高い方々であ
--	---

れば、受益者負担ということについてもご納得していただけるのではないかと。値段の妥当性については、検討が必要かとも思うが、もう少し低い金額からスタートし段階的に考えていくことが望ましいのではないだろうか。

例としてだが、公民館を利用していて、今夏、とても暑かったので、冷房を強めて欲しいとの話が幾つかの団体からあがったが、予算を引き合いに断られるという話があったが、それならば自分たちでその費用ぐらひは負担するから、快適に利用させてくれ、というような話もある。やはり、このような時代であれば、自分たちに返ってくる物事については、費用負担をしてもいいという考えの人が多いと感じている。

佐藤委員：やはり、1回あたり300円という金額は少し高齢者には負担かなと感じた。小西委員が言われるように、デイサービスとは少し、観点が違うということで整理した方がよいのではないだろうか。ワンコインということであれば、やはり、100円だろうか。

三澤委員長：介護保険制度の本体についても、制度の継続のためには費用負担が広がってきている状況にある。そんな中で、介護予防事業についても、そのままというのは難しいことは理解が出来る。例えば、お父さんのアンチエイジング講座や、高齢者健康トレーニング教室については、ある程度、参加者が固定化してきているのであれば、有料化について投げかけてみることも選択肢としてよいのではないだろうか。また、元気はっけん広場についても、やはり参加者にある程度の費用負担をお願いする必要があるのではないかと。

中間副委員長：シニア連のグラウンドゴルフ大会などは、募金制で成り立っている。役場の事業では難しいかもしれないが、そういったもので置いてみると意外と集まるかもしれない。あと、高齢者健康トレーニング教室については、参加した人間が、上手く自分でトレーニングルームの活用を行うように促していくことが必要だとも感じる。なかなか、あのマシンを自分一人で行って利用するというのは、ハードルが高いので、私もかつてそれらの使い方を指導してもらいたくて参加したが、同

	じように考える利用者が増えればとも思う。 ○その他 浅野Co：【今後の予定について説明】 12月4日の岡田地域でのブレーストーミングについては、三澤委員長と中間副委員長には、詳細が決まり次第追って連絡します。 (閉会) ○副委員長挨拶 中間委員 今月10月25日に、シニア連主催で、「地域支援事業担い手養成研修」を開催し、友愛活動について学んだ。地域での支え合い活動について、シニア連としても、寒川町でどのような活動が出来るかを考えていきたい。
配付資料	配布資料 資料1 寒川町生活支援コーディネーター活動報告（令和元年7月～10月） 資料2 岡田県営住宅地域における生活支援サービスの調査方法について 資料3 介護予防事・日常生活支援総合業の再編について 参考資料1 令和元年度 生活支援コーディネーター等養成研修事業 参考資料2 地域支え合い活動モデル調査研究事業 抜粋 参考資料3 一般介護予防事業詳細 参考資料4 元気はっけん広場参加者アンケート結果
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	森 一光、佐藤 敬（令和元年12月9日確定）